

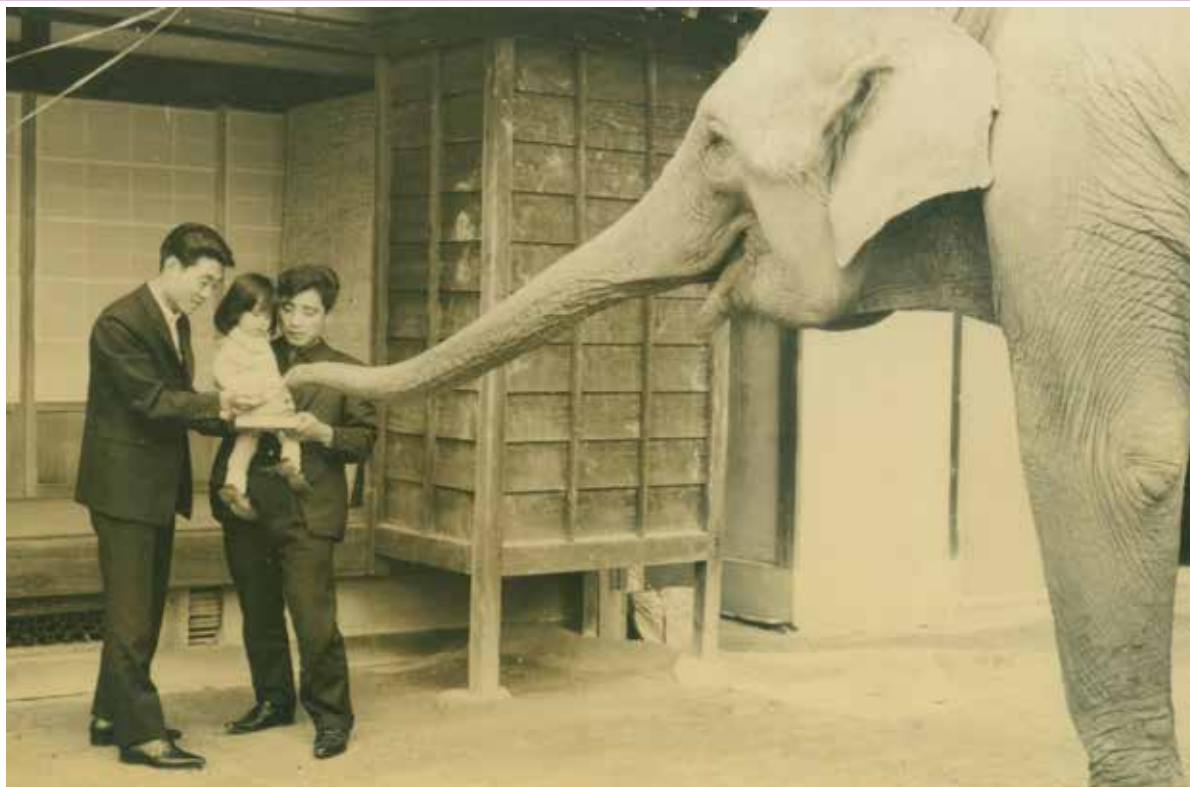
ひろしま郷土資料館だより

NO.106

企画展

別世界 元宇品 — 陸地とつながった島の変容 —

会期：令和5年5月20日(土)～令和5年7月2日(日)



▲ 「宇品天然水族館には象がいた！」 昭和42年(1967)撮影 大久保英巳さん蔵
瀬戸内海の魚やスナメリ、さらにはライオン、孔雀もいましたが、一番人気は象のハナコさんでした。

令和5年(2023)5月19～21日、当館からほど近い宇品島(元宇品)にてG7広島サミット(主要国首脳会議)が開催されました。周囲約3km、住民約1,500人の小島は、一躍有名になり、身近な町の元宇品が、全国ニュースでは、聞き慣れない宇品島と呼ばれ、市民の皆さんは、なんだか違和感を覚えたのではないのでしょうか。G7に併せて開催した本展では、この元宇品や宇品島の名の由来や、島の東側・西側の様相について、市民提供の写真・絵葉書等を中心に紹介しました。

目次	P1-2	企画展「別世界 元宇品—陸地とつながった島の変容—」
	P3	企画展「夏休み おばけの博物館」
	P4	イベント「郷土資料館被爆建物案内」・活動報告
	P5	活動報告・学芸員実習・インターシップ
	P6	図録再販のお知らせ・後期日程

陸地とつながった宇品島の変容

元宇品は古来、樹木の伐採や開発が制限された原生林があり、伝説や逸話も多く神秘的な離れ小島でした。牛がふせた形に見えたようで、古図には牛奈島・牛ノ島・氏名島等の字がみられ、その他、広島湾を「江の内」と呼び、島がその内



▲ 元宇品 埋立ての変遷

「元宇品(宇品島)の歴史探訪」(注釈：野田雄司氏 原図：田村昭二氏)をもとに作成

にあるため、内の島・内な島となり、当て字で宇品になったという説もあります。

さて、のどかな島が一変したのは、明治17年(1884)のことです。広島県令・千田貞暁のもと、

皆実新開(現南区皆実町・翠町一带)と宇品島の間に、大型船の入港可能な港づくりが始まり、明治22年(1889)、「宇品港(現広島港)」が完成しました。これにより干拓地の宇品と宇品島は一本の道でつながりました。さらに明治37年(1904)には、安芸郡仁保島村字宇品島から広島市に編入され、元宇品^{まち}が誕生しました。町名は、対岸を既に宇品町としていたため、「(元祖)元から宇品」なので元宇品となりましたが、広島市の向こう側にあるので、市民には向宇品^{むこう}とも呼ばれ、憩いの島として親しまれてきました。



▲ 展示風景



▲ 絵葉書 宇品別世界(海水浴場) 大正11年(1922)頃か 個人蔵
砂浜にはブランコ、子どもは浮き輪、堤防から飛び込む人もいます。



▲ 宇品天然水族館の北ゲート

昭和36年(1961)撮影 藤本美保子さん蔵

背後の看板のようなクジラはいませんでした、スナメリは飼育されていました。

宇品島西側はリゾート地

宇品築港を請け負った服部長七(土木技術者)が、広島県から工事代金の一部として受取った島の北西の土地、約6千坪を大正11年(1922)、(株)宇品別世界が買取り、リゾート施設が誕生しました。敷地内には水族館、旅館、潮湯温泉、海水浴場などがありましたが、経営不振で昭和3年(1928)には宇品土地(株)に売却され、昭和4年には広島市が、広島市主催昭和産業博覧会第三会場(会期3月10日～5月13日)として借用し、海軍参考館や水族館が設営されました。戦後になると、実業家・浜本乙松が、この海水浴場を購入して埋立てを行い、昭和33年(1958)、私設の宇品天然水族館がオープンしました。そのため、海水浴場は南の海岸へと移り、昭和44年(1969)の閉場まで、当時の広島市唯一の海水浴場でした。展示室内は、元宇品の思い出に浸り、語らう来館者で大変賑わいました。

(会期中の来館者数 1,677名)

(山縣紀子/現：広島城学芸員)



◀ 展示ナビゲーター
「うし奈ちゃん」

企画展

夏休み おばけの博物館

会期：令和5年7月15日(土)～令和5年8月27日(日)

不思議だ、奇妙だということに出会った時、昔の人は人ではないものの存在を感じていました。おばけ（妖怪）を通して人々の想いや生活にふれる企画展です。お化け屋敷の追体験で涼しさを求めてくる方、ゲームの中の妖怪を期待して来られる子どもなど様々なご要望に応えるべく、多くのコーナーを作りました。

◎2階企画展示室 <昔のお化け屋敷の追体験> ことしのテーマは「鬼」(「大江山^{しゅてんどうじ} 酒呑童子」)



▲ 酒呑童子とご対面

入口の学習コーナーで、スタッフから「大江山酒呑童子」の絵巻物から作製した、紙芝居風パネル【大江山 酒呑童子】のお話を聞きます。妖怪たちを見学しながら、大江山 酒呑童子の物語（6場面）を体験しながらたどり、最後に酒呑童子とご対面です。出口では、物語同様に仕掛けがあります。子どもたちには「強くなれるかもしれない兜」をかぶってもらい、酒呑童子の館への道を探検します。

◎現在も使われている神楽「大江山」酒呑童子の面と衣装の展示

北広島町壬生^{さになわ}の砂庭神楽団からお借りした神楽衣装と面の展示をし、「八岐大蛇^{やまたのおろち}」など神楽公演のVTRを見られるようにしました。華やかな舞台が興味をひいたのか、子どもたちもじっくり見ていました。

◎「大江山の今」現地レポート

鬼伝説の地「大江山」はどういうところなのか。実際に、京都府福知山市大江町に行き、伝説の地を歩いた報告と現地写真を展示しました。

◎妖怪写真館

写真館のようなセットの中で、つくも神^{なりがま}「鳴釜」の等身大人形と同じポーズと一緒に写真を撮ります。ご家族全員で写真を撮られ、「来年の年賀状にします。」と言われたお母さんがおられました。

◎マスキングテープを使って妖怪人形を作ろうコーナー

雪だるまのような妖怪人形にさまざまな色のマスキングテープをちぎって貼り、沢山完成させました。

◎つくも神作家、八木一文さんの「つくも神フィギュア」大集合

8作品で新作4点（鈴彦姫など）を含む展示です。バックのジオラマも驚くほど精巧です。

◎宇品島（元宇品）コーナー

5月のG7サミットを記念して、宇品島の簡単な歴史と、昭和40年代まで宇品天然水族館にいた象の「ハナコ」の大パネル写真と宇品島にいたと伝わる天狗の仲間「狗養^{ぐひん}さん」人形を展示しました。

企画展「夏休みおばけの博物館」は、宇品の夏の風物詩として定着しているようです。歴史的な説明もあって興味深くて怖くて面白いなど、概ね好評のご意見をいただいておりますが、企画展示室の内容が本格的過ぎて小さな子どもに合わないとのことご意見もいただきます。来年度も様々な世代の方に昔の生活をお伝えできるように創意工夫をしてみたいです。(会期中の入館者 8,882名)

(河村直明)



▲ 学習コーナー



▲ 鳴釜と一緒に写真を撮ろう

スペシャルイベント

郷土資料館被爆建物案内

開催日：令和5年8月6日（日）



▲ 昭和の茶の間と台所
(戦時中)



▲ 復活！「一銭洋食」

78回目の原爆の日である8月6日（日）に、被爆建物である当館建物（旧宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場）の解説などを行う「被爆建物案内」を行いました。宇品陸軍糧秣支廠がなぜ宇品に設置されたのか。爆風で曲がった天井の鉄骨を見ながら被爆時の状況説明など112年間の歴史を解説しました。常設展示室の「昭和の茶の間と台所」は夏休み期間中には戦時中バージョンに変更し、2階講堂では昭和7年（1932）に宇品港から出征する兵士や見送る広島市民の様子が記録された映像の上映を行いました。



▲ 曲がった鉄骨の解説

今年は、コロナ禍で昨年まで中止していた、お好み焼のルーツである「一銭洋食」を来館者に作ってもらって試食するコーナーを4年ぶりに復活し、子供たちに大人気でした。学芸員実習中の大学生（7名）も解説や試食コーナーで大活躍してくれました。多くの方にご来館いただき戦争や平和について考える1日となりました。（参加者 705名）（河村直明）

活動報告

令和5年4月～9月

事業

実施日	事業名	参加者
4月22日（土）	企画展関連イベント① 「折りたためる！ペーパークラフトで作る郷土資料館のたてもの」	8名
4月29日（土・祝）	企画展関連イベント②「糧秣支廠建物ウォッチング」	11名
5月3日（水・祝）	GW お楽しみイベント①「フラワーふきあげパイプ作り」	12名
5月4日（木・祝）	GW お楽しみイベント②「クルクルかざぐるま作り」	36名
5月5日（金・祝）	GW お楽しみイベント③「からくりコイのぼり人形作り」	37名
5月27日（土）	フィールドワーク「新緑の元宇品さんぽ」	30名
6月17日（土）	教室「藍染めTシャツ作り」	15名
6月25日（日）	大人向け教室「藍染めTシャツ作り」	18名
7月23日（日）	スペシャルイベント 「ファイヤーバンドふれあいコンサート～安全・安心な街づくりのために～」	21名
9月23日（土・祝）	教室「切り絵ランタン作り」	11名
9月30日（土）	教室「『ごんぎつね』おはなし会」と工作「きつねのマジックカード」	18名

夏休みわくわくイベント

実施日	事業名	参加者
7月26日(水)～28日(金)	カンタン工作「わくわくブンブンごま作り」	109名
8月2日(水)～4日(金)	カンタン工作「紙コップけん玉作り」	109名
8月16日(水)～18日(金)	カンタン工作「ストローうぐいす笛作り」	136名

その他の事業

実施日	事業名	主催等	参加者
6月4日(日)	体験指導「広島城メモリアルデー・昔の遊び体験(めんこ遊び)」	広島城	617名
	紙芝居実演「広島城メモリアルデー・たのしい紙芝居(猿猴と河童の話)」		604名
6月15日(木)	講演「日本百名城で探る城めぐりの魅力！」	中野公民館	37名
9月16日(土)	講演「宇品港～築港から太平洋戦争まで」	マリン・アシスタント広島	16名
9月24日(日)	講演「日本100名城で探る お城めぐり入門」	楽々園公民館	38名
9月30日(土)	「お月見ナイトミュージアム」	広島城	540名

博物館実習

実施期間：令和5年8月1日(火)～8日(火)(7日は休館日)

今年度も、博物館実習生を受け入れました。ここ数年、定員の枠を超えていますが、今年度も7名を受け入れました。実習では、例年8月6日に実施している「被爆建物案内」「昭和のくらし案内」のガイドを行い、戦時中の状況について来館者へわかりやすく伝えました。また、復活した「一銭洋食づくり」の試食補助を行いました。また、例年行っている工作教室の補助を、今年度は説明から補助まで全面的に任せるなどの新たな取り組みを行いました。ボランティアの協力を得て実施する通常の教室と同等の事業が実施できました。そのほか、資料の取り扱い実習、梱包実習、当館で実施している普及事業(糸車体験、藍染め体験)などを行いました。

プログラムはやや盛沢山ではありましたが、どの実習生も能力が高く、高度な内容にも対応できていました。また、様々な大学の実習生であったもの、事業を実施する際などの実習生相互協力体制が円滑に感じました。実りある7日間で、当館としての博物館実習の役割を果たすことができました。

(実習生：京都女子大学、県立広島大学、広島女学院大学、八洲学園大学、安田女子大学 計7名)

(玉置和弘)

インターンシップ

実施期間：令和5年8月

実習では「おばけの博物館」や「夏休みわくわくイベント」の補助、資料データの入力などに取り組んでいただきました。

(8月16日(水)～20日(日) 5日間 1名 広島市立大学)

(8月23日(水)～27日(日) 5日間 2名 安田女子大学)

(前野やよい)

図録「絵葉書の中の広島」 再版のお知らせ

図録「絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～」の重版を再販しています。

【内容】

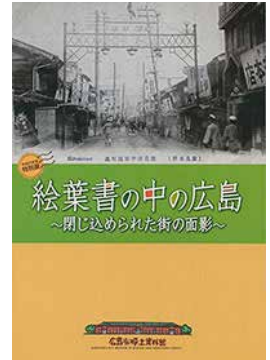
マスコミが発達していなかった時代の貴重なメディアとして、明治33年以降、実に多種多様な絵葉書が日本中で作成されるようになりました。本図録では、こうした絵葉書のうち戦前の広島市内の街の様子が分かる資料を紹介し、知られざる街の歴史について解説しています。

定価：750円(税込)

重版：令和5年(2023)8月1日

A4判 110ページ

郷土資料館ミュージアムショップ、通信販売で販売中



令和5年度(2023) 後期日程

企画展 「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

令和5年9月9日(土)～11月26日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



ごんぎつねと昔の道具

企画展 「実は広島2ーモノづくり編ー」

令和5年12月9日(土)～令和6年2月25日(日)

広島がシェア NO.1 である製品や、知られざる広島の産業を紹介する第二弾。今回は金属製品や金物製品などを中心に紹介します。



明治時代の針商
(『広島諸商仕入買物案内』より) 当館蔵

企画展 「歩いて楽しい、本通」

令和6年3月9日(土)～5月6日(月・振休)

江戸時代より今日まで、広島有数の繁華街として賑わってきた本通の歩みを紹介します。



大正時代
絵葉書(広島名勝)革屋町本通 当館蔵

状況により、臨時休館や展示会期・教室事業等の変更または中止の可能性があります。あらかじめご了承ください。最新の情報は当館ホームページ等でご確認ください。

ひろしま郷土資料館だより No.106

令和5年(2023)10月31日発行

編集・発行 (公財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772

URL <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

